

2022 年度事業報告

(自 2022 年 1 月 1 日 ～ 至 2022 年 12 月 31 日)

一般社団法人日本医療薬学会

2022 年度の組織体制として、第 14 回定時社員総会（2022 年 3 月 18 日開催）の決議を経て、山本康次郎氏を会頭とする新役員体制となり、理事 20 名及び監事 3 名が就任した。続いて 4 月より、各委員会も改編され新たな組織体制下での活動がスタートした。

3 年目のコロナ禍を迎え、経目的に社会経済活動の回復傾向が見られる中で、現地開催を念頭に第 14 回臨時社員総会、第 32 回年会、第 5 回フレッシュャーズ・カンファランス、第 2 回臨床研究セミナー、第 9 回がん専門薬剤師全体会議の準備を進めたが、結果的にハイブリッド形式（現地+WEB）での開催となった。感染への懸念がある中で現地会場に赴くことが難しく、各企画の現地参加者数は奮わなかったが、年会やフレッシュャーズ・カンファランスでは熱気にあふれた活発な討論があり、対面での討論の重要性が再認識された。

各委員会では、事業計画に沿った活動が進められたほか、諸規程類の見直しの議論や改訂が進められるなど適正かつ深化した活動が見られた。また、新たな委員会の組織化が検討され、若い世代の会員の発想を取り入れることやジェンダー平等への取り組みを推進することを決定した。2023 年度に組織化され活動がスタートする予定である。

2022 年度事業報告の概要は以下のとおりである。

〔1〕事業の部

1. 会員数（2022 年 12 月 31 日現在）

正会員：13,781 名、 学生会員：224 名、 賛助会員：13 社・団体
名誉会員：28 名

2. 医療薬学専門薬剤師制度の認定数（2023 年 1 月 1 日現在）

医療薬学専門薬剤師：1,612 名（前年同日の認定数：1,646 名）
医療薬学指導薬剤師：854 名（前年同日の認定数：872 名）
医療薬学専門薬剤師研修施設：337 施設（前年同日の認定数：314 施設）

3. がん専門薬剤師制度の認定数（2023 年 1 月 1 日現在）

がん専門薬剤師：730 名（前年同日の認定数：731 名）
がん指導薬剤師：314 名（前年同日の認定数：315 名）
がん専門薬剤師研修施設：338 施設（前年同日の認定数：334 施設）

4. 薬物療法専門薬剤師制度の認定数（2023 年 1 月 1 日現在）

薬物療法専門薬剤師：52 名（前年同日の認定数：52 名）
薬物療法指導薬剤師：54 名（前年同日の認定数：54 名）
薬物療法専門薬剤師研修施設：260 施設（前年同日の認定数：237 施設）

5. 地域薬学ケア専門薬剤師制度の認定数 (2023年1月1日現在)

地域薬学ケア専門薬剤師 (暫定認定) : 44名 (前年同日の認定数 : 65名)

地域薬学ケア専門薬剤師 (がん) (暫定認定) : 138名 (前年同日の認定数 : 163名)

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設 (基幹施設) : 205施設

(前年同日の認定数 : 185施設)

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設 (連携施設) : 171施設

(前年同日の認定数 : 199施設)

6. 会議・委員会開催状況

社員総会 2回 (定時・臨時 各 1回)、定例理事会 6回、臨時理事会 1回、理事会事前打合せ 6回、予算会議 1回、監事監査 1回、会計点検 1回、公益法人化等将来計画検討委員会 1回、2023-2024年度代議員候補者推薦委員会 1回、代議員選挙管理委員会 1回、財務委員会 1回、会員委員会 2回、専門薬剤師制度運営委員会 3回、専門薬剤師制度運営委員会事前打合せ 1回、専門薬剤師制度支援システム検討 WG1 回、Web 申請・審査システム構築に係る打合せ 1回、専門薬剤師認定試験問題作成に係る打合せ 1回、専門薬剤師認定試験小委員会 2回、医療薬学専門薬剤師認定委員会 3回、がん専門薬剤師認定委員会 2回、がん専門薬剤師試験小委員会 3回、がん専門薬剤師能力向上小委員会 4回、がん専門薬剤師研修小委員会 7回、薬物療法専門薬剤師認定委員会 3回、薬物療法集中講義企画・運営小委員会 4回、薬物療法専門薬剤師研修ガイドライン改定に係る打合せ 1回、地域薬学ケア認定に係る打合せ 4回、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会 7回、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会コアメンバー会議 2回、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会コアメンバー会議事前打合せ 1回、医療薬学教育委員会 1回、広報・出版委員会 3回、広報・出版委員会に関する打合せ 1回、JPHCS 編集委員会 1回、JPHCS 誌に係る打合せ 1回、臨床研究推進委員会 1回、国際交流委員会 1回、医療薬学編集委員会 1回、利益相反マネジメント規程整備に係る打合せ 1回、功績賞・奨励賞等選考委員会 1回、学術関連賞選考委員会 3回、日本医療薬学会賞等選考小委員会 1回、医療薬学誌論文賞選考小委員会 1回、JPHCS 誌論文賞選考小委員会 1回、Postdoctoral Award 選考小委員会 1回、フレッシュャーズ・カンファランス実行委員会 2回、フレッシュャーズ・カンファランスに係る打合せ 2回、フレッシュャーズ活性化委員会 1回、医療薬学学術委員会 2回、医療薬学学術第 4 小委員会 2回、2020 年度医療薬学学術第 1 小委員会 3回、2021 年度医療薬学学術第 1 小委員会 6回、2021 年度医療薬学学術第 2 小委員会 3回、2022 年度医療薬学学術第 1 小委員会 2回、2022 年度医療薬学学術第 2 小委員会 1回、2022 年度医療薬学学術第 3 小委員会 1回、年会運営実行小委員会 2回、出版物改訂に係る打合せ 2回、年会長候補者推薦委員会 2回、役員候補者推薦委員会 1回、製薬企業連携検討 WG1 回、がん専門薬剤師全体会議に係る打合せ 2回、がん専門薬剤師アドバンスト研修会に係る打合せ 2回、がん介入症例書き方セミナーに係る打合せ 1回、がん専門薬剤師研修ガイドライン改定に係る打合せ 1回、がん専門薬剤師集中講義 合同協議 2回、第 33 回年会コンベンション会社の二次選考に係るヒアリング 1回。

7. 各委員会活動報告

(1) 総務委員会

1) 2023 年度事業計画の草案を検討した。

2) 働き方改革・新型コロナウイルスへの感染対策等を念頭にした学会運営・会議等の電

子化を推進した。

3) 諸規程の整備・定款見直しの方針を検討した。

4) 小委員会の活動

①年会運営実行小委員会

年会運営に関する必要な事項を共有・検討した。

②年会長候補者推薦小委員会（旧年会長候補者推薦委員会）

第36回日本医療薬学会年会（2026年開催）の年会長候補者として、崔 吉道（金沢大学附属病院 教授・薬剤部長）を選出した。

③事務局会議室改装検討WG

事務局会議室改装についての方針を検討した。

5) 事務局組織体制の整備・強化として2名の職員を採用し、また職員の勤務評定の導入を検討した。

6) 事務局職員の人事管理・労務等を調査した。

(2) 財務委員会

1) 2021年度決算報告書を取りまとめた。

2) 予算の執行状況と適切性を監視した。

3) 年会の組織委員会に参画し、年会長と理事会及び学会事務局との連携を推進した。

4) 2023年度予算案を作成した。

(3) 広報・出版委員会

1) 広報用リーフレットを改訂した。

学生や若手薬剤師の新規入会促進への活用を目的とした学会紹介用リーフレットを改訂し、全国の薬学部をはじめ関連機関へ配布した。

2) 本学会の諸規定類のホームページへの掲載・公表について議論した。

掲示・公表する情報を集約したホームページを作成し、当該ページを通じて各情報を掲示することとした。

3) ホームページデザインの改編を検討した。

現在のホームページの構造では新たなカテゴリーの増設等に制限があるため、ホームページの大規模な改編（リニューアル）の必要性を決定した。現在掲載中の情報の再配置について現時点では検討を進めず、リニューアルと合わせて実施することとした。

4) SNS等の活用を検討した。

SNSを活用する場合にはまずソーシャルメディアガイドラインを策定する必要があることから、各委員が他学会等の情報を確認し、今後の活用を継続して協議することとした。

5) 「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」の改訂に関する情報共有ならびに今後の方針について議論した。

専門薬剤師認定取得のための薬物療法に関する入門書（first step）として出版することとし、臨床の基礎力をつけることを目的とする。専門薬剤師認定試験の出題範囲テキストや単なる知識整理本にならないようにすることとした。

(4) 企画・シンポジウム委員会

1) 医療薬学公開シンポジウムの開催

第 85 回から第 88 回までの 4 回の公開シンポジウムの開催および開催支援を行った。

① 第 85 回 山形市、山口浩明（山形大学医学部附属病院）

開催日 2022 年 8 月 27 日（土）、WEB 開催（ライブ配信）

テーマ 『薬剤師の専門性を発揮した医療連携強化に向けて』

② 第 86 回 神戸市、室井延之（神戸市立医療センター中央市民病院）

開催日 2022 年 10 月 1 日（土）、WEB 開催（ライブ配信）

テーマ 『注射薬臨床情報の不易流行～臨床現場でクリニカルファーマコメトリクスを活用する～』

③ 第 87 回 名古屋市、築山郁人（名城大学薬学部）

開催日 2022 年 10 月 8 日（土）、WEB 開催（ライブ配信）

テーマ 『がんと在宅医療 –ポストコロナを見据えた薬学連携–』

④ 第 88 回 富山市、加藤敦（富山大学附属病院）

開催日 2022 年 11 月 13 日（日）、WEB 開催（ライブ配信）

テーマ 『ジェネリック医薬品・バイオシミラーを取り巻く環境と今後に期待すること』

(5) フレッシュヤーズ活性化委員会

1) 第 5 回フレッシュヤーズ・カンファランスを開催した。

- ・ 実行委員長 伊藤清美（武蔵野大学薬学部 教授）
- ・ 日程 2022 年 6 月 12 日（日）
- ・ 会場 武蔵野大学 武蔵野キャンパス（東京都西東京市）
- ・ 開催形式 現地と WEB 開催（ライブ配信）とのハイブリッド

2) 第 6 回フレッシュヤーズ・カンファランスの実行委員長を決定した。

- ・ 実行委員長 内田まやこ（同志社女子大学薬学部 教授）
- ・ 開催予定日 2023 年 6 月 11 日（日）
- ・ 会場 同志社女子大学 京田辺キャンパス（京都府京田辺市）
- ・ 開催形式 現地と WEB 開催（ライブ配信）とのハイブリッド

(6) 会員委員会

1) 会員登録や各手続きの案内を分かりやすく案内するとともに FAQ の整備、年会費を納入しない場合の自動退会、復会・再入会ならびに会費遡及納入の手続きの仕組みを図示化することなどを協議し、復会・再入会ならびに会費遡及納入の手続きの明瞭化を進めること、またメールを活用した会務等の広報情報の配信を、会員登録されたメールアドレスに配信できるように会員細則の改定案を理事会へ提出した。

2) 厚労科研における「病院薬剤師のキャリアパス調査」において、退会者の情報を利用することに關する是非を議論し、協力することとなった。

3) 会費の遡及納入に係る嘆願書及び休会届を受け付けて審議し、対応を検討の上、理事会に諮った。

(7) 医療薬学編集委員会

1) 「医療薬学」第 48 巻 1 号～12 号を編集・発行した。

- ① 2022年1月から12月までに127編（うち非学会員から19編）の論文投稿があり、同期間内に61編を採択した（採択率：48%）。
 - ② 第48巻1号～12号に61編の論文を掲載した（昨年度79件）。
内訳：一般論文23編、ノート36編、ミニレビュー2編（うち英文論文は2編）
 - 2) 医療薬学編集委員会を開催し、現状の情報共有と今後の方針について議論し確認した。投稿規定は、法令が変わっていることを踏まえ早急に理事会に上程し変更を行った。投稿規定・執筆規定等の確認及び改定作業は早期に実施する。医療薬学誌の投稿数が減少しているため、活性化について意見交換し具体策を実施して改善を図ることとなった。
- (8) JPHCS 編集委員会
- 1) 英文誌 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS) の第8巻(2022年)を編集・発行した。
 - ① 第8巻(2022年)に37編の論文を掲載した。
内訳：Research article 28編、Case report 7編、Short Report 2編
 - ② 2022年1月から12月までに125編の論文投稿を受付けた。
内訳：Research article 92編、Case report 14編、Review 7編、Short report 12編
 - ③ 採択率は29.6%であった。
 - 2) 領域が広範化している投稿論文の査読体制を充実させるため、2023年1月1日より10名を本委員会委員として追加委嘱した。
 - 3) ジャーナル本誌や学会ホームページにおける案内を、より適切な内容に改編した（APCに関する説明の変更、投稿手順マニュアルの更新、委員長の写真掲載、クローンジャーナルへの注意喚起等）。
- (9) 専門薬剤師制度運営委員会
- 1) 各専門薬剤師制度間の整合化や情報の共有
医療薬学専門薬剤師制度の連携研修の取扱い、各制度の規程細則の改正に係る検討、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師及び地域薬学ケア専門薬剤師制度における新規申請の前に長期休暇や研修未履修等のブランク期間があるケースの申請に供する症例(50症例)の取扱い、2023年度の各制度の申請スケジュール等を整理した。また、薬物療法専門薬剤師及び地域薬学ケア専門薬剤師の研修コアカリキュラム・同研修ガイドラインの改訂などを協議した。
 - 2) 小委員会の活動
 - ① 薬物療法集中講義企画・運営委員会
2022年専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義【WEB開催（オンデマンド配信）（2022年7月1日(金)～8月31日(水)）】の企画・運営を行った。
 - ② 専門薬剤師認定試験小委員会
2022年度専門薬剤師認定試験を実施した。
試験日：2022年7月31日（日）
申請者数 46名、受験者数 46名、合格者数 34名（合格率 73.9%）
 - ③ 専門薬剤師制度支援システム検討WG
専門薬剤師制度支援システムの構築を進めた。2023年度後期の稼働を目指す。

(10) 医療薬学専門薬剤師認定委員会

1) 医療薬学専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

① 医療薬学専門薬剤師：新規認定（正規）35名、暫定認定から正規認定への移行34名、
新規認定（暫定）18名、更新認定318名、更新保留4名

2022年7月31日（日）に専門薬剤師認定試験を実施

② 医療薬学指導薬剤師：新規認定38名、更新認定186名、更新保留2名

③ 医療薬学専門薬剤師研修施設：新規認定 基幹施設49施設、連携施設10施設、
更新認定 基幹施設46施設

2) 医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師の英語表記について検討した。

3) 申請時の適切な臨床実績事例報告作成のために、第32回年会シンポジウム「日本医療薬学会専門薬剤師制度における症例報告・臨床実績の書き方」に参加した。

4) 小委員会の活動

本制度の研修到達目標、研修ガイドライン、患者アウトカムや医療の質向上に寄与した事例報告書等の修正が今年は特に無かったため、主だった活動は行わなかった。

(11) がん専門薬剤師認定委員会

1) がん専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

①がん専門薬剤師：新規認定66名、更新認定75名（一部審査中）、更新保留2名

②がん指導薬剤師：新規認定28名（一部審査中）、更新認定27名

③がん専門薬剤師研修施設：新規認定 基幹施設32施設、連携施設6施設、
更新認定 基幹施設22施設、準ずる施設1施設

2) 教育啓発活動として、第32回日本医療薬学会年会でシンポジウムを開催、日本病院薬剤師会と共催でがん専門薬剤師集中教育講座をWEB開催（オンデマンド配信）、第14回日本がん薬剤学会学術大会において教育セミナーを共催、がん専門薬剤師全体会議はハイブリッドで開催した。症例のスキルアップセミナー、アドバンスト研修会はそれぞれ2月にそれぞれWEB開催（ライブ配信）した。

3) 小委員会の活動

① がん専門薬剤師試験小委員会（3回開催）

がん専門薬剤師認定試験問題を作成し、2022年6月25日（土）に認定試験を実施した。
受験者96名中79名（82.3%）を合格とした。

② がん専門薬剤師研修小委員会（3回開催）

i) がん専門薬剤師集中教育講座をWEBで開催（オンデマンド配信）した（日本病院薬剤師会と共催）2022年11月1日～2022年12月23日（受講申込者は2,537名）。

ii) 他学会が実施する講習会・教育セミナーの受講単位を認定した。

iii) がん専門薬剤師の研修ガイドライン及びコアカリキュラムを更新した。

iv) 第1回がん介入症例の書き方スキルアップセミナー（WEB開催）を2022年2月20日（日）に開催した。

③ がん専門薬剤師能力向上小委員会（4回開催）

- i) 第 8 回がん専門薬剤師アドバンスト研修会 (WEB 開催) を 2022 年 2 月 26 日 (土) に開催した。
- ii) 第 9 回がん専門薬剤師全体会議を 2022 年 5 月 7 日 (土) にハイブリッドで開催した。(東京・現地参加 38 名、WEB 参加 398 名)

(12) 薬物療法専門薬剤師認定委員会

- 1) 薬物療法専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。
 - ① 薬物療法専門薬剤師 (新規認定) の申請者及び認定者数
申請者数 32 名、認定者数 15 名
 - ② 薬物療法指導薬剤師 (新規認定) の申請者及び認定者数
申請者数 8 名、認定者数 8 名
 - ③ 薬物療法専門薬剤師 (更新認定) の申請者及び認定者数
申請者数 12 名、認定者数 8 名
 - ④ 薬物療法指導薬剤師 (更新認定) の申請者及び認定者数
申請者数 12 名、認定者数 12 名
 - ⑤ 薬物療法専門薬剤師研修施設 (新規認定) 申請及び認定施設数
申請施設数 42 施設、認定施設数 42 施設 (基幹施設 42 施設)
 - ⑥ 薬物療法専門薬剤師研修施設 (更新認定) 申請及び認定施設数
申請施設数 112 施設、認定施設数 112 施設 (基幹施設 110 施設、連携施設 2 施設)
- 2) 申請時の適切な症例報告のために、第 32 回年会シンポジウム「日本医療薬学会専門薬剤師制度における症例報告・臨床実績の書き方」に参加した。
- 3) 小委員会の活動
薬物療法専門薬剤師研修ガイドライン及びコアカリキュラムを更新した。また、単位認定の対象となるセミナーの申請を受け付け審査・認定を行った。

(13) 地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会

- 1) 地域薬学ケア専門薬剤師制度の専門薬剤師、研修施設の認定を行った。今年度の各認定数は次のとおり。

① 地域薬学ケア専門薬剤師新規暫定認定者	17 名
② 地域薬学ケア専門薬剤師「がん」新規暫定認定者	15 名
③ 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設 (基幹施設)	26 施設
④ 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設 (連携施設)	33 施設
- 2) 地域薬学ケア専門薬剤師制度における研修者と基幹施設のマッチングに関する WEB 研修会として「地域薬学ケア専門薬剤師制度における連携研修マッチングに係る全国説明会」を日本薬剤師会・都道府県薬剤師会と協力して実施した。
- 3) 各都道府県薬剤師会との連携に基づき研修希望者と研修施設のマッチングを実施した。
- 4) 地域薬学ケア専門薬剤師認定要件の内容整備について検討した。
- 5) 認定に関するセミナー・講習会の実施について検討した。
- 6) 地域薬学ケア専門薬剤師研修ガイドラインの更新について検討した。

(14) 功績賞・振興賞選考委員会

選考規程及び内規に基づき、以下の受賞者を決定した。

1) 功績賞（受賞者 2 名）

- ・ 吉光寺 敏泰（MeijiSeika ファルマ株式会社）
- ・ 齋藤 秀之（熊本大学病院）

2) 振興賞（受賞者 0 名）

- ・ 該当者なし

(15) 学術関連賞選考委員会

1) 日本医療薬学会賞の選考規程及び内規を改正し、会員歴の要件を緩和（25 年継続→10 年継続）するとともに、本学会の発展への貢献も評価することとした。

2) 学術賞の選考規程及び内規を改正し、応募資格となる会員歴の要件を緩和（10 年継続→5 年継続）した。

3) Postdoctoral Award の選考内規及び応募書式を改訂し、学業修了後の将来性の部分を評価できる形に整備した。

4) 日本医療薬学会賞等選考小委員会、Postdoctoral Award 選考小委員会、医療薬学誌論文賞選考小委員会及び JPHCS 誌論文賞選考小委員会の各委員会にて一次選考された候補者について、二次選考を行い、理事会に諮り下記の受賞者、受賞論文を決定した。

① 日本医療薬学会賞（受賞者 1 名）

- ・ 山田 清文（名古屋大学医学部附属病院）

研究題目 遺伝および環境要因を踏まえた神経精神疾患モデルの創出と医療薬学研究への応用

② 学術賞（受賞者 0 名）

- ・ 該当者なし

③ 奨励賞（受賞者 4 名）

- ・ 赤嶺 由美子（秋田大学医学部附属病院）

研究題目 精神科領域における個別化薬物療法の開発

- ・ 植田 貴史（兵庫医科大学病院/兵庫医科大学）

研究題目 抗菌薬適正使用支援および抗真菌薬適正使用支援に関わる薬学的介入の臨床的評価

- ・ 近藤 悠希（熊本大学大学院生命科学研究部）

研究題目 腎機能障害を中心とした Special population の薬物療法最適化に関する基礎-臨床研究

- ・ 中川 俊作（京都大学医学部附属病院）

研究題目 抗微生物薬の効果及び安全性に関する臨床疫学研究

④ Postdoctoral Award（受賞者 10 名）

- ・ 岡本 敬介（北海道大学病院）

学位論文題目 抗がん剤の副作用と耐性化に着目した cyclooxygenase 阻害薬の効果の検証

- ・ 小澤 秀介（信州大学医学部附属病院）

学位論文題目 ヒトアストロサイトーマ由来 MOG-G-CCM 細胞におけるシトクロム

- P450 の発現プロファイルおよび多環芳香族炭化水素と抗てんかん薬による CYP1 遺伝子の発現解析
- 笹野 央 (順天堂大学医学部附属順天堂医院)
学位論文題目 特殊集団におけるバンコマイシンの薬物動態／薬力学解析：超低出生体重児と Enterococcus faecium 菌血症患者における検討
 - 佐村 優 (医療法人社団緑成会 横浜総合病院)
学位論文題目 ダプトマイシンの高齢者における最適投与法の検討ならびに副作用発現に関する要因解析
 - 梨本 俊亮 (北海道大学病院)
学位論文題目 コレステロールトランスポーターNPC1L1 を介した脂溶性抗酸化物質の消化管吸収動態の解析
 - 新村 貴博 (徳島大学病院)
学位論文題目 Hydrocortisone administration was associated with improved survival in Japanese patients with cardiac arrest
 - 藤田 有美 (金沢大学附属病院)
学位論文題目 組織薬物分布に対する MDR1 および BCRP 寄与の胎盤・脳関門間比較
 - 森田 時生 (大鵬薬品工業株式会社)
学位論文題目 果汁飲料による小腸有機アニオン輸送ポリペプチド (OATP) 阻害作用の活性本体の探索とその阻害活性の検討
 - 山本 譲 (旭川医科大学病院)
学位論文題目 エンタカポン併用下における L-dopa およびその代謝物である 3-O-メチルドパの体内動態に及ぼすカテコール-O-メチルトランスフェラーゼ Val158Met 遺伝子多型の影響
 - 若井 恵里 (大阪大学大学院医学系研究科)
学位論文題目 In Silico 及び In Vivo アプローチを用いたシスプラチン誘発性腎障害に対する新規保護薬の探索
- ⑤ 医療薬学誌論文賞 (受賞論文 3 編)
- 論文題目 術後悪心嘔吐の発症率と麻酔科医の予防措置決定に薬剤師による介入が及ぼす影響
著 者 猪狩賢蔵, 鈴木信也, 関博志, 野村嘉奈子, 外園弥生, 吉田蘭子, 阪上貴子, 伊藤智一, 荒瀬透, 林誠一
(医療薬学 Vol. 47, No. 4, 179-184)
 - 論文題目 低風疹抗体価の産褥婦に対する風疹ワクチン接種 protocol-based pharmacotherapy management の効果
著 者 在間優衣, 岡田淳芳, 中村豪志, 石井一也, 大塚識稔, 山本昌彦
(医療薬学 Vol. 47, No. 10, 527-536)
 - 論文題目 デパケン® 細粒 40%懸濁液の経鼻栄養チューブ閉塞に対するとろみ調整食品添加の有用性
著 者 浜田茂明, 森本真仁, 大島直実, 篠原由起子, 鈴江朋子, 石田志朗
(医療薬学 Vol. 47, No. 11, 616-622)

⑥ JPHCS 誌論文賞 (受賞論文 3 編)

- ・ 論文題目 Opioid therapy duration before naldemedine treatment is a significant independent risk of diarrhea: a retrospective cohort study
著 者 Akiharu Okamoto, Kenji Ikemura, Eri Mizutani, Takuya Iwamoto and Masahiro Okuda
(JPHCS 2021 7:3)
- ・ 論文題目 Mixture of clopidogrel bisulfate and magnesium oxide tablets reduces clopidogrel dose administered through a feeding tube
著 者 Manahito Aoki, Midori Naya, Shiho Arima, Kaori Shinohara, Masahiro Kato, Kiyoshi Shibuya, Masaki Ohtawa, Tohru Nagamitsu and Katsuya Otori
(JPHCS 2021 7:18)
- ・ 論文題目 Potentially harmful excipients in neonatal medications: a multicenter nationwide observational study in Japan
著 者 Jumpei Saito, Naomi Nadatani, Makoto Setoguchi, Masahiko Nakao, Hitomi Kimura, Mayuri Sameshima, Keiko Kobayashi, Hiroaki Matsumoto, Naoki Yoshikawa, Toshihiro Yokoyama, Hitomi Takahashi, Mei Suenaga, Ran Watanabe, Kinuko Imai, Mami Obara, Mari Hashimoto, Kazuhiro Yamamoto, Naoko Fujiwara, Wakako Sakata, Hiroaki Nagai, Takeshi Enokihara, Sayaka Katayama, Yuta Takahashi, Mariko Araki, Kanako Iino, Naoko Akiyama, Hiroki Katsu, Kumiko Fushimi, Tomoya Takeda, Mayumi Torimoto, Rina Kishi, Naoki Mitsuya, Rie Kihara, Yuki Hasegawa, Yukihiro Hamada, Toshimi Kimura, Masaki Wada, Ayano Tanzawa and Akimasa Yamatani
(JPHCS 2021 7:23)

(16) 医療薬学教育委員会

本委員会活動の方向性を検討

昨年度に引き続き、本委員活動の方向性について議論した。広報出版委員会、フレッシュヤーズ・カンファランスなどの機会に薬学生を対象とした資材の作成やシンポジウム等の実施を計画することが提案された。また、学生が年会に参加するには問題があり、金銭的な問題、参加しても理解が困難であること、交流がないことがあげられるため、トラベルグラントや学会ツアーといった交流の機会の提供できないか検討することが提案された。

(17) 国際交流委員会

1) 年会における英語セッションの企画

第 32 回年会の 1 日目である 2022 年 9 月 23 日 (金) 午前、International Session (口頭) を、午後、国際シンポジウム 1 & 2 を企画・運営した。また、International Session (ポスター) の演題募集およびプログラム編成を行った。

- ・シンポジウムタイトル

『Challenge of Pharmaceutical Health Care and Sciences toward Society 5.0 1&2』

第1部 台湾、中国、日本各1名、韓国2名で、合計4名の講師の講演

第2部 日本人5名による英語での講演

- ・International Session：口頭9題(米国1題)、ポスター19題(中国5題、韓国3題を含む)の一般発表。

2) 海外研修制度の検討

- ・2022年度海外研修等助成員の募集を行い、下記の2名を選考した。
那須 いずみ(国家公務員共済組合連合会 虎ノ門病院 薬剤部)
河添 仁(慶應義塾大学 薬学部)
- ・2023年度海外研修等助成員の募集要項を作成し、学会誌及び学会HPで募集案内を行った(締切日：2023年3月10日)。

(18) 医療薬学学術委員会

1) 各医療薬学学術小委員会の活動

●医療薬学学術第4小委員会(米澤淳委員長)

研究テーマ：医療現場における薬物相互作用マネジメント能力育成に関する研究

「パキロビッド(ニルマトレルビル/リトナビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き・第1版」を2022年2月28日に本学会ホームページで公表し、6月には更新版(第1.1版)を公開した。薬物相互作用に係る教育・普及活動として、本学会年会をはじめとする関連学会等での学会発表や執筆活動を実施した。また、「ゾコーバ(エンシトレルビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き・第1版」を2023年1月19日に医療薬学会のホームページで公表した。

●2020年度医療薬学学術第1小委員会(松尾宏一委員長) 研究テーマ：がん患者に対する薬剤師による副作用マネジメントの薬学および経済学的な効果に関する研究

・「抗がん薬治療の分野で薬剤師はどのような業務を現在担っているのかの実態調査」に係るアンケート調査を実施した。その結果の精査と考察を取りまとめて第32回日本医療薬学会年会においてポスター発表を行った。現在、当該解析結果を「医療薬学誌のノート」への投稿準備を進めている。

・薬剤師外来における副作用マネジメントや薬学的介入によって、外来がん薬物療法の有効性および安全性にどのような効果が認められるかを検討する調査を委員が所属する施設でパイロット試験的にデータを抽出している。本小委員会はコロナ禍での活動となり、当初立案した研究計画に遅延を生じたが、本年度は当初の研究計画の疫学調査をパイロット的に進める段階まで進んだ。

・2023年3月をもって本小委員会の活動期間が終了となるが、今後も活動を継続し、疫学調査の大規模調査を実施するために、調査により現況が判明した薬剤師介入施設と非介入施設に調査研究の参加を募り、症例数を大幅に増やして薬剤師による抗がん薬の副作用マネジメント効果のエビデンスを構築したい。

●2021年度医療薬学学術第1小委員会(須永登美子委員長)

研究テーマ：臨床業務における薬剤師による有害事象報告教育基盤の構築

- ・2022年11月、医療薬学会の会員(病院所属)を対象に有害事象報告に対する意識と

Case report の教育体制に関するアンケート調査を実施した。

- ・共同研究3施設で標準化した指導を実施することを目的にCase report 作成に必要な9種類の教育動画シリーズを作成し、目標としていた全シリーズの作成が完了した(シリーズ①有害事象報告の概論、②副作用報告ガイドライン、③CARE ガイドライン、④Naranjo Score について、⑤Drug Interaction Probability Scale について、⑥実症例に基づいた論文検索方法: PubMed や医中誌、⑦DRUGBANK について、⑧有害事象自発報告データベースの利用方法について、⑨医薬品副作用救済制度と給付された症例の紹介について)。
- ・共同研究施設で報告された有害事象を評価してCase report を作成し、論文投稿や学会発表を進めた。

●2021年度医療薬学学術第2小委員会(渡邊裕之委員長)

研究テーマ: 免疫チェックポイント阻害薬の他施設共同患者レジストリーを用いた、免疫関連有害事象の早期発見に資する研究

- ・施設共同観察研究を進めるにあたって最大の問題点となる倫理審査の承認を終え、各共同研究施設でのオプトアウトの手続きを完了した。同時進行で研究課題の選出、既存のデータを用いた予備検討を実施し、最終年度にエビデンスを創出するための準備を整えることができた。
- ・幅広いがん種・適応の中から現在臨床で問題かつ情報が不足となっている臨床クエスチョンを討議し、「高齢の肺がん患者における免疫チェックポイント阻害薬の安全性」に関する検討を決定した。共同研究施設の単施設におけるレジストリデータを用いて予備検討を実施した。また、解析時の統計解析の方法などを議論しデータ集積後から迅速に公表できるように準備をした。

●2022年度医療薬学学術第1小委員会(鈴木賢一委員長) ※2022年6月採択

研究テーマ: 病院・薬局薬剤師がシームレスで行う、がん薬物治療の有害事象マネジメント支援体制の構築

- ・2022年12月、がん領域におけるトレーシングレポートの普及や有効活用のための意見集約を目的に、薬局薬剤師を対象とした「がん領域のトレーシングレポート作成上の問題点等」に関するオンラインアンケートを実施した。さらなる有効利用のための問題点等を把握することができた。

●2022年度医療薬学学術第2小委員会(館知也委員長) ※2022年6月採択

研究テーマ: WITH/POST 新型コロナウイルス時代のオンライン研修教育のあり方

- ・オンライン研修教育(一方向型および同時双方向型)に係る現状把握のために、①論文発表、学会発表、書籍など(様々な分野のオンライン研修教育に関するものとする)、②学会や企業などが実施している研修教育のWeb公開情報(医療関係者、医学・薬学におけるオンライン研修教育を中心に、その他の関連分野も含める)、③その他、オンライン研修教育において有益な情報、これら収集した情報をもとに、薬剤師のためのオンライン研修教育のあり方を検討した。

●2022年度医療薬学学術第3小委員会(矢野良一委員長) ※2022年6月採択

研究テーマ: 症例検討による省察の推進と教育への展開を目指した調査研究

- ・我が国の薬剤師による症例検討会の実態、ならびに症例検討会に対する薬剤師の認識を明らかにするため、日本医療薬学会の会員が所属する医療施設、ならびに会員個人を対象としたアンケート調査、実地調査、インタビュー調査のための検討を進めた。現在、

研究倫理審査を受審中である。

2) 2023 年度に向けた医療薬学学術小委員会の新規募集

2023 年 4 月（予定）より発足する医療薬学学術小委員会の研究テーマを以下のように設定し、公募手続を進めた。

① 本学会として取り組むべき、または推進すべき活動

（例）薬剤師職能・専門性の将来展開と学術的基盤の醸成、他学会等との連携推進、出版事業、WITH/POST 新型コロナウイルス時代の研修教育・情報共有のあり方など

② 各領域、疾患群における医療薬学研究及び科学的薬物療法のエビデンス構築につながる活動

（例）プレジジョン・メディシンに関する研究、PBPM を活用したアウトカム・エビデンス、処方箋鑑査・疑義照会のチェックポイントマニュアル作成のための活動など

③ 多施設共同研究、分野連携型の医療薬学研究の基盤整備に関する活動

（例）患者レジストリーのシステム整備、トランスレーショナルリサーチ及びリバーストランスレーショナルリサーチの体制整備、医療ビッグデータの利活用、事務局体制の構築など

④ 医療 DX 推進に関する活動

（例）電子処方箋に関する調査研究、電子化された添付文書の活用など

(19) 臨床研究推進委員会

1) 臨床研究セミナーの開催

① 第 2 回臨床研究セミナー『連携して臨床研究を進めよう』を 2022 年 4 月 17 日（日）にハイブリッドで開催した。

② 第 3 回臨床研究セミナー『観察研究を始めてみよう』を 2023 年 4 月 16 日（日）にハイブリッドで企画した。

2) 年会での企画

① 第 32 回年会においてシンポジウム『優れた研究能力と専門性を備えた次世代リーダーの育成を目指して』を企画した。

② 第 33 回年会においてシンポジウム『優れた研究能力と高い専門性を活用し患者アウトカムを改善する！』を演題登録した。

(20) 製薬企業連携検討ワーキング

医療用医薬品の安定供給をテーマとして取り上げ、当該安定供給の現状の確認と課題の洗い出しを目的に、関連学会等から国への提言の調査を行い、国の施策として、医薬品の安定確保・供給が重要課題として取り上げられていることを確認した。

(21) 選挙制度委員会（代議員選挙管理委員会、代議員候補者推薦委員会）

1) 2023-2024 年度代議員選挙の公示、立候補受付

代議員選出規程に基づき 2023-2024 年度代議員選挙を公示し立候補者を募集し 350 名より立候補の届け出があった。

2) 2023-2024 年度代議員候補者の推薦

代議員候補者推薦委員会では、代議員選出規程に基づき 2023-2024 年度代議員選挙の被

選挙人として、立候補者以外の 34 名の代議員候補者を推薦した。

3) 2023-2024 年度代議員の決定

2023 年 3 月に本選挙の当選者を決定し、第 15 回定時社員総会の終結時より就任予定である。

(22) 利益相反マネジメント委員会

1) 利益相反 (COI: Conflict of interest) の申告対象者の利益相反状態を確認した。

- ・「一般社団法人日本医療薬学会 利益相反マネジメント規程」を再確認し、COI 自己申告対象者、運用方法 (申告依頼、提出管理) を再定義し、2022 年 11 月 1 日付で改正した。
- ・事務局から対象者に対し自己申告書の提出を依頼し (2022 年 11 月 24 日)、対象者 249 名全員から提出を得、利益相反マネジメント委員会において当該規定に則り利益相反の状況を確認した。
- ・数名の利益相反の申告があったが、疑義もしくは社会的・法的問題に抵触するような重大な利益相反は認められず、その旨、山本会頭に報告した (2022 年 12 月 27 日)。

2) 申告書類の保管管理を行った。

- ・提出された申告書は事務局がドロップボックスで保管、利益相反マネジメント委員会が利益相反の状況をドロップボックス上で確認し、事務作業を効率化した。
- ・なお、ドロップボックスはアクセス権を限定しパスワードを設定し事務局にて厳格に管理している。

(23) 日本薬系学会連合設立準備への協力

薬系学会による連合組織の設立に向けて、日本薬学会と協働し各薬系学会への働きかけ、説明会の企画及び開催を進め、日本薬系学会連合設立委員会を発足するに至った。

(24) 人事委員会

2022 年 10 月に 2 名の事務局職員 (契約職員) を採用した。

8. 年会 (第 32 回日本医療薬学会年会)

テーマ 『知の融合で織りなす Society 5.0 の医療薬学』

年会長 山本 康次郎 (群馬大学医学部附属病院 薬剤部長)

開催日 2022 年 9 月 23 日 (金・祝) ~25 日 (日) ※現地開催、ライブ配信

2022 年 10 月 11 日 (火) ~11 月 14 日 (月) ※オンデマンド配信

開催方式 ハイブリッド開催

1) 事業内容

年会長講演	1 題
会頭講演	1 題
特別講演	2 題
教育講演	3 題
日本医療薬学会 学会賞・奨励賞受賞講演	5 題
日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演	10 題

International Symposium (国際シンポジウム)	2 セッション
特別企画シンポジウム	1 セッション
シンポジウム (公募)	76 セッション (オンデマンド配信のみ含む)
市民公開講座	1 セッション
ワークショップ	1 セッション
一般演題	847 題
i) 優秀演題候補	20 題
ii) Young Investigator Award (YIA) (学生)	5 題、 YIA (社会人) 20 題
iii) ポスター	671 題
International Session	28 題
共催セミナー	28 セッション
◆ 一般参加者数	10, 156 名

2) 事業成果

第 32 回日本医療薬学会年会を、2022 年 9 月 23 日 (金・祝) ～25 日 (日) の 3 日間、G メッセ群馬・高崎芸術劇場 (群馬県高崎市) において、現地開催およびライブ配信、10 月 11 日 (火) ～11 月 14 日 (月) にオンデマンド配信のハイブリッドで開催した。

年会としては、新型コロナウイルス感染症の影響で第 30 回年会、31 回年会が完全 WEB 開催であったが、第 32 回年会では現地開催に加え、ライブ配信、後日オンデマンド配信を行う、本学会の年会としては初のハイブリッド開催を実施した。参加者数は招待者を含め 10, 200 名を超える参加者となった。

本年会のメインテーマは「知の融合で織りなす Society 5.0 の医療薬学」とした。Society 4.0 として位置付けられる現在の情報社会では、知識や情報の共有の不足、分野横断的な連携の不十分さなどが露呈しつつあり、これらの問題点を解消し、新しい価値を生み出すとともに、地域の課題や困難を克服する社会として、Society 5.0 が提言されている。この Society 5.0 においては、医療薬学に対してもさまざまな変化や改革が求められており、先進技術の活用により、これまでとは大きく異なる次世代の医療が創造されることが期待される。また、現在、さまざまな時間的、技術的制約のなかでファーマシスト・サイエンティストとしての活動を行っているが、それらの限界が取り払われる Society 5.0 において、我々が行うべきことや、社会における我々の役割を示すことも求められている。そこで、本学会が、この Society 5.0 の医療薬学を作り上げていくためのキーポイントになればと考え、本テーマを設定した。

特別講演 1 では、サスメド株式会社の市川太祐先生に「デジタル医療の未来像と其中で期待される薬剤師の役割」を、特別講演 2 では、群馬大学医学部附属病院 システム統合センターの鳥飼幸太先生に「医薬学改革の Society 5.0 が始まった～機械学習、標準化、量子コンピューティング～」を講演いただいた。

教育講演 1 では、慶應義塾大学医学部病院薬剤学教室の大谷壽一先生に「医薬品情報の科学的な収集、評価、活用～薬物動態を中心に～」を、教育講演 2 では、フォーネスライフ株式会社 CTO 和賀巖先生に「プロテオミクス解析とビッグデータに基づくデータヘルスケア」を、教育講演 3 では、東京大学医学部附属病院企画情報運営部の土井俊祐先生に「情

報システムから見る電子処方箋のイロハ」について講演いただいた。

特別企画シンポジウムとして、「医療情報のこれからと薬剤師」と題し、オーガナイザーを奈良県立医科大学附属病院 薬剤部の池田和之先生、座長を群馬大学医学部附属病院 薬剤部の阿部正樹先生にお願いし、厚生労働省特定医薬品開発支援・医療情報担当参事官室 田中彰子先生に「データヘルス改革における厚生労働省の取組み」、医療データ活用基盤整備機構の岡田美保子先生に「全国で医療情報を確認できる仕組みとその情報利活用」、東京大学大学院医学系研究科 社会医学専攻 医療情報学分野の大江和彦先生に「処方情報の電子化における標準化とそのデータ利活用の課題と展望」、九州大学病院メディカル・インフォメーションセンターの中島直樹先生に「自身の保健医療情報を活用できる仕組みとPHR」をそれぞれ講演いただき、活発に討論いただいた。

公募シンポジウムには 73 枠の応募があり、66 枠を採択（オンデマンド配信のみ 3 枠含む）し、年会企画シンポジウム 10 枠を合わせた 76 枠のセッションを実施した。国際交流として International Symposium 「Challenge of Pharmaceutical Health Care and Sciences toward Society 5.0 -1, 2」を 2 枠（10 題）開催し、韓国、中国、台湾、日本における薬剤師による役割・取組みについて紹介された。また、国際セッションを 1 枠開催し、米国と日本におけるがん薬物療法の相違について議論された。これらのセッションにおいては、新たな技術のトライアルとして、自動翻訳システムを導入した。

一般演題については、851 題の応募があり、不採択 1 題、取り下げ 3 題で、最終的に、口頭発表：176 題（うち優秀演題候補 20 題、YIA 候補 25 題）、ポスター発表：671 題の合計 847 題を採択した。例年通り優秀演題の選考を行い、候補 20 題から 4 題を選出、また、31 年會に引き続いて、Young Investigator Award (YIA) を設置し、候補 25 題から 6 題を選出し表彰した。

また、International Session として、28 題（Oral：9 題、Poster：19 題）の英語発表が行われ、海外からも発表いただいた。

その他、「安心して子供を産み・育てられる環境を目指して～医療の立場から～」と題して、市民公開講座を企画し、信州大学医学部附属病院薬剤部の小澤秀介先生に「妊娠とくすり～健やかな子どもは健やかな母性に宿る～」、群馬大学大学院医学系研究科産科婦人科学講座の岩瀬明先生に「老若男女に知ってほしい現代社会における生殖医療の課題」をそれぞれ講演いただいた。メディカルセミナーも 28 セッション開催された。

単位認定に関しては、従来の日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師の単位認定を行い、日病薬病院薬学認定薬剤師制度については、セッション毎とし、該当セッションについては現地参加、ライブ配信、後日オンデマンド配信と参加形式を変えても取得できるようにした。なお、現地参加について、当日該当セッション会場にて QR コードを使用した入退室管理を行った。

また、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度集合研修単位については、研修単位の管理運営上の問題から、現地参加者のみ取得できるように設定した。

本年会では、年会関係者・学会関係者、年会発表者・参加者のご協力により、ハイブリッド開催という今後の新たな年會のあり方の一つを提示することで、将来的な医療薬学の発展に貢献することができた。また、一部セッションにおいては、ライブ配信およびオンラインでの双方向性の議論を実施したことにより、さまざまな要因により現地参加が制限されてきた方に対して、年會での討論への参加を可能にする一つのきっかけを提供できたと考

えている。一方、2年越しの現地開催かつ初のハイブリッド開催ということもあり、単位の取り扱い等に関する一部運営における準備の不足や、要旨の閲覧に関する環境構築の不十分さ、年会毎にWEBアクセス方法が変更されていることに関する情報提供等の不十分さなどが反省点として挙げられた。これらの点については、学会事務局ならびに次回以降の年会関係者に引き継ぐことにより、より良い年会の構築に繋げていきたい。一方、コロナ禍が収束していない中での開催となり、年会での開催が期待された懇親会などの企画は断念せざるを得ない状況ではあったが、大きな混乱もなく盛会のうちに終わることができたと考えている。これは、日本医療薬学会理事会・事務局のご支援と、組織委員・企画検討委員・実行委員・学会運営事務局など本年会開催に関わった全ての皆様のご尽力、またご参加いただいた皆様のご理解とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

9. 医療薬学公開シンポジウム

(1) 第85回医療薬学公開シンポジウム

薬剤師の専門性を発揮した医療連携強化に向けて

開催日 2022年8月27日(土)

開催形式 WEB開催(ライブ配信)

特別講演1

座長：篠田総合病院薬局 薬局長 伊藤 秀悦

「地域医療連携での薬剤師の立ち位置」

一般社団法人 山形県薬剤師会 会長 岡寄 千賀子

特別講演2

座長：山形大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長 山口 浩明

「薬剤師の職能を主体的に考えてみる」

一般社団法人 山形県病院薬剤師会 会長 羽太 光範

シンポジウム

座長：山形大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長 志田 敏宏

：有限会社メディカ ほし薬局 代表 星 利佳

「地域におけるがん・緩和領域医療連携の課題」

山形県立新庄病院 薬剤部 小林 由佳

「患者と家族が安心できる在宅医療を目指して」

株式会社みらい工房 代表取締役 遠藤 祐喜

「地域で育む“食べる喜び”を求めて～北庄内食支援隊～」

あおば調剤薬局 福島 雅幸

「やまがた医療連携吸入指導勉強会による医療連携

～より有効な吸入療法実施への取り組み～」

おいのもり調剤薬局 加藤 淳

「地域医療における地域フォーミュラリの役割」

日本海総合病院 薬剤部長 佐藤 賢

◆参加人数 308名

(2) 第86回医療薬学公開シンポジウム

注射薬臨床情報の不易流行～臨床現場でクリニカルファーマコメトリクスを活用する～

開催日 2022年10月1日(土)

開催形式 WEB開催(ライブ配信)

講演1

座長: 神戸学院大学 薬学部 橋田 亨

「クリニカルファーマコメトリクス概論: 個別化投与設計の変遷」

神戸大学医学部附属病院 薬剤部 矢野 育子

講演2

座長: 大阪大谷大学 薬学部 名徳 倫明

「臨床活用例・バンコマイシンのTDMを含めて」

熊本大学病院薬剤部 尾田 一貴

講演3

座長: 国際医療福祉大学 薬学部 倉本 敬二

「集中治療領域でのファーマコメトリクスの活用」

神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部 田村 亮

講演4

座長: 神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部 室井 延之

「数理モデルに基づく投与設計: クリニカルファーマコメトリクスの未来」

神戸学院大学 薬学部 / シンシナティ小児病院 臨床薬理学部門 福島 恵造

◆参加人数 295名

(3) 第87回医療薬学公開シンポジウム

がんと在宅医療ーポストコロナを見据えた薬薬学連携ー

開催日 2022年10月8日(土)

開催形式 WEB開催(ライブ配信)

シンポジウム「がんと在宅医療ーポストコロナを見据えた薬薬学連携ー」

座長: 名古屋大学医学部附属病院 宮崎 雅之

: 名城大学薬学部・総合研究所クリニカルオミクス基盤TRセンター教授 野田 幸裕

「がん医療の問題点と現状: Overview」

名城大学薬学部・総合研究所クリニカルオミクス基盤TRセンター教授 野田 幸裕

「最新のがん研究」

名城大学薬学部・総合研究所クリニカルオミクス基盤TRセンター教授 柳澤 聖

「がん治療における支持療法の研究」

名城大学薬学部・総合研究所クリニカルオミクス基盤TRセンター教授 築山 郁人

「がん医療における地域医療連携」

名古屋記念病院 薬剤部 壁谷 めぐみ

「在宅におけるがん医療」

ヤナセ薬局 宇野 達也

特別講演

座長: 名城大学薬学部・総合研究所クリニカルオミクス基盤TRセンター教授 柳澤 聖

「がんを間質からとらえる-がん細胞の周囲環境の改変による薬剤感受性増強の試み-」

名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍病理学 教授 榎本 篤

◆参加人数 214名

(4) 第88回医療薬学公開シンポジウム

ジェネリック医薬品・バイオシミラーを取り巻く環境と今後に関心すること

開催日 2022年11月13日(日)

開催形式 WEB開催(ライブ配信)

教育講演

座長：富山県病院薬剤師会 会長 脇田 真之

「医薬品の特性や品質を決定する処方設計の重要性」

富山大学 学術研究部 薬学・和漢系 製剤設計学講座 客員教授 大貫 義則

特別講演

座長：富山大学附属病院 教授・薬剤部長 加藤 敦

「超スマート社会に向けた創薬イノベーションと持続可能な医療：

ジェネリック医薬品・バイオシミラー使用促進への取り組み」

浜松医科大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 川上 純一

シンポジウム1「SDGsな医薬品使用を目指して ～供給不足問題～」

座長：高岡市民病院 薬剤科長 麻生 美佐子

「病院薬剤部主導で立ち向かう医薬品供給問題」

富山市民病院 野澤 寿吉

「地域連携で取り組む医薬品不足とポリファーマシー(病院編)」

富山労災病院 稲村 勝志

「地域連携で取り組む医薬品不足とポリファーマシー(薬局編)」

たんぼぼ薬局 畠山 規明

シンポジウム2「バイオシミラーの国民医療費削減効果と臨床現場での取り組み」

座長：公立学校共済組合北陸中央病院 薬剤科部長 守内 匡

「大学病院におけるバイオシミラー利用促進への取り組み」

富山大学附属病院 橋本 美紀恵

「当院におけるバイオシミラーへの切り替えの現状と課題」

厚生連高岡病院 船本 哲生

「薬局薬剤師とバイオシミラーとの関わり」

あおば薬局 山原 裕史

◆参加人数 371名

10. 臨床研究セミナー

第2回臨床研究セミナー 『連携して臨床研究を進めよう』

開催日 2022年4月17日(日)

会場 大崎ブライトコアホール、WEB開催(ライブ配信)併用

基調講演1

座長：篠原 久仁子(恵比寿ファーマシー/フローラ薬局)

「薬局から発信する研究-日常業務の疑問をどのように研究に活かすか?-」

尾関 佳代子（愛知学院大学薬学部 准教授）

基調講演 2

座長：菅原 満（北海道大学大学院薬学研究院）

「医療の場で考える研究計画と解析計画」

矢野 義孝（京都薬科大学臨床薬学教育研究センター 教授）

特別講演

座長：池田 龍二（宮崎大学医学部附属病院薬剤部）

「“倫理的な研究”ってどんな研究？」

－実践に活かす「臨床倫理」と「研究倫理」の考え方－

板井 孝孝郎（宮崎大学医学部附属病院臨床倫理部 部長/

宮崎大学医学部社会医学講座 生命医療倫理学分野 教授）

シンポジウム「連携研究を進める～はじめの一步と次の一步～」

座長：鈴木 小夜（慶應大学薬学部）

：中村 任（大阪医科薬科大学薬学部）

「私が社会人大学院に入った理由～臨床研究のイロハを求めて」

堀 智貴（奈良県総合医療センター薬剤部/神戸大学大学院医学研究科）

「PBPM 構築から論文投稿に至るまで」

在間 優衣（公立学校共済組合中国中央病院薬剤部）

「薬局での POCT 機器活用に基づく医師と患者をつなぐ健康サポート」

河内 明夫（富高薬局）

◆参加人数 268 名

1 1. 第 5 回フレッシュャーズ・カンファランス

開催日 2022 年 6 月 12 日（日）

会場 武蔵野大学、WEB 開催（ライブ配信）併用

演題数 口頭発表 36 題、ポスター発表 24 題

教育講演 「科学研究とはどのような活動か」

群馬大学大学院医学系研究科教授・医学部附属病院薬剤部長 山本 康次郎

◆参加人数 183 名

1 2. がん専門薬剤師集中教育講座

令和 4 年度がん専門薬剤師集中教育講座（WEB 開催（オンデマンド配信））

配信期間 2022 年 11 月 1 日（火）～12 月 23 日（金）

・プログラム

【必須 基礎】

「抗がん薬の臨床薬理」茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 薬剤局薬剤科

副薬剤科長 大神 正宏

「支持療法」国立がん研究センター中央病院 薬剤部 渡部 大介

「がん薬物療法の臨床試験」国立がん研究センター中央病院 先端医療科

科長・副院長 山本 昇

「安全ながん薬物療法の実践」神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部

副部長 池末 裕明

「緩和医療とがん疼痛治療」 聖隷横浜病院薬剤部 部長 塩川 満

「がんの発生、転移、薬剤耐性」 近畿大学医学部ゲノム生物学 教授 西尾 和人

【必須 薬物療法】

「乳がんの薬物療法」 九州がんセンター 乳腺科 部長 徳永 えり子

「肺がんの薬物療法」 関西医科大学病院 呼吸器腫瘍内科 診療部長 教授 倉田 宝保

「大腸がんの薬物療法」 埼玉医科大学国際医療センター 腫瘍内科・消化器腫瘍科
診療部長・教授 濱口 哲弥

「胃がんの薬物療法」 滋賀医科大学医学部附属病院 消化器内科 助教、内科診療科群
病棟医長 松本 寛史

「悪性リンパ腫の薬物療法」 九州大学病院 血液・腫瘍内科 助教 森 康雄

「泌尿器がんの薬物療法」 慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室 教授 大家 基嗣

「皮膚がんの薬物療法」 国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 科長 山崎 直也

「婦人科領域がんの薬物療法」 九州がんセンター 婦人科 医長 園田 顕三

「がんゲノム医療」 がん研究会有明病院 乳腺内科・ゲノム診療部 乳腺内科医長・
ゲノム診療部医長 深田 一平

【選択】

「頭頸部がんの薬物療法」 国立がん研究センター東病院 頭頸部内科 科長 田原 信

「放射線腫瘍学」 京都大学病院 医学研究科 医学専攻 放射線医学講座
放射線腫瘍学・画像応用治療学 講師 吉村 通央

「肝臓、胆道、膵臓がんの薬物療法」 滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・一般外科）
教授 谷 眞至

「白血病・造血幹細胞移植」 山形大学大学院医学系研究科 内科学第三講座
主任教授 石澤 賢一

◆参加人数 2,537名

13. がん専門薬剤師全体会議

第9回がん専門薬剤師全体会議

開催日 2022年5月7日（土）

会場 東京（KFC Hall & Rooms Room10A）・WEB開催（ライブ配信）併用

セッション1

「さあ、臨床研究を始めてみよう！」

座長：佐野 元彦、藤田 行代志、松尾 宏一

「さあ、臨床研究を始めてみよう！一歩踏み出す研究の手順」

佐藤 淳也（国際医療福祉大学病院）

「研究計画の立て方」

飯原 大稔（岐阜大学医学部附属病院）

「レトロスペクティブ研究を実施するうえでのポイント」

林 稔展（福岡大学）

ランチョンセミナー（小野薬品工業／ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社 共催）

座長：三宅 知宏（伊勢赤十字病院）

「複合がん免疫療法の開発状況と irAE のマネジメントについて」

北野 滋久（がん研究会有明病院 先端医療開発科 部長/がん免疫治療開発部 部長）

セッション2

「より洗練されたタスク・シフトの実践に向けて！」

座長：有馬 純子、高田 慎也、村上 通康

「がん専門薬剤師ができるタスク・シフト—徳島赤十字病院の場合—」

組橋 由記（徳島赤十字病院）

「経口抗がん薬治療に対する薬剤師の診察前面談による患者の服薬支援
および医師の診療補助」

郷 真貴子（大垣市民病院）

「がん薬物療法におけるタスク・シフトと薬剤業務の合理化」

平島 正樹（神戸市立医療センター中央市民病院）

セッション3

「キャリア継続の悩みを共有しよう」

座長：谷川原 祐介、原田 知彦、三宅 知宏

「キャリアを継続していくために」

金子 基子（山形大学医学部附属病院）

「がん専門薬剤師を続けるためにママ薬剤師が取り組んだこと」

高林 真貴子（金沢大学附属病院）

「キャリア（資格）継続とワーク・ライフ・バランス」

寺島 里枝（湘南藤沢徳洲会病院）

「山形県立3病院を異動して経験したこと—異動は悪いことばかりじゃない—」

齋藤 智美（山形県立中央病院）

「キャリア継続の難しさ」

大辻 貴司（滋賀県立小児保健医療センター）

イブニングセミナー（中外製薬株式会社 共催）

座長：河原 昌美（愛知学院大学）

「高齢者に対する肺癌薬物療法の現状～ALK 陽性肺癌を中心に～」

野崎 要（国立がん研究センター東病院 呼吸器内科）

◆参加人数 436名（現地参加：38名、WEB参加：398名）

1.4. がん介入症例の書き方スキルアップセミナー

第1回がん介入症例の書き方スキルアップセミナー

開催日 2022年2月20日（日）

開催形式 WEB開催（ライブ配信）

「症例書き方のポイントについて」

がん専門薬剤師認定委員会委員長 河原 昌美（愛知学院大学）

がん専門薬剤師認定優秀症例受賞者 石田 翔（広島市立広島市民病院）

グループワーク

メディカルセミナー（共催 日本化薬株式会社）

「ハイリスク患者におけるがん薬物療法」

野田 哲史（滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部）

グループワーク

症例発表

◆参加人数 28名

1 5. がん専門薬剤師アドバンスト研修会

第8回がん専門薬剤師アドバンスト研修会

開催日 2022年2月26日（土）

開催形式 WEB開催（ライブ配信）

「臨床研究に取り組み、論文化する」

座長：松尾 宏一（がん専門薬剤師能力向上小委員会）

「臨床研究テーマの立案とデータ収集解析のポイント」

池末 裕明（神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部）

「英文論文が書ける！論文投稿のノウハウ～半学半教の精神～」

河添 仁（慶應義塾大学薬学部）

メディカルセミナー（共催 小野薬品工業株式会社）

座長：中多 陽子（公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院薬剤部 特命副部長）

「がん悪液質治療における薬剤師の関わり方～エドルミズの適正使用を含めて～」

橋本 浩伸（国立がん研究センター中央病院薬剤部 副部長）

症例検討「肺がん：irAE マネジメント」

講師：山口 央（埼玉医科大学国際医療センター 呼吸器内科）

藤堂 真紀（埼玉医科大学国際医療センター 薬剤部）

司会：池末 裕明（がん専門薬剤師能力向上小委員会）

◆参加人数 30名

1 6. 薬物療法専門薬剤師集中講義

2022年専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義（WEB開催（オンデマンド配信））

配信期間 2022年7月1日（金）～8月31日（水）

・プログラム

「抗菌薬 TDM ガイドライン」慶應義塾大学 薬学部薬効解析学講座教授 松元 一明

「緩和薬物療法」市立芦屋病院 薬剤科部長 岡本 禎晃

「貧血」長崎大学病院 細胞療法部准教授 長井 一浩

「緑内障」長崎大学病院 眼科 河野 良太

「『不整脈』～発症機序から治療まで～」日本医科大学付属病院 循環器内科准教授

岩崎 雄樹

「アトピー性皮膚炎の病態・診断と治療」九州大学大学院医学研究院

皮膚科学分野診療准教授 中原 剛士

「関節リウマチ」広島大学病院リウマチ・膠原病科 科長、教授、医局長 平田 信太郎

「パーキンソン病」大阪大学大学院医学系研究科 神経内科学教授 望月 秀樹

「脳卒中の薬物療法」大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経内科学教授 伊藤 義彰

「高尿酸血症・痛風」東京薬科大学薬学部医療薬学科病態生理学教授 市田 公美

「ネフローゼ症候群- 腎組織化から病態を学ぶ -」 国立国際医療研究センター病院

腎臓内科診療科長 高野 秀樹

「医薬品リスク管理計画とその活用」 国家公務員共済組合連合会虎の門病院

薬事専門役 林 昌洋

◆参加人数 896 名

1 7. 関係団体への協力（本学会役員）

- 1) 一般社団法人薬剤師認定制度認証機構 奥田真弘：理事
- 2) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査制度への協力学会として登録
山本康次郎：統括責任者
- 3) 文部科学省・薬学系人材養成の在り方に関する検討会 奥田真弘：委員

〔2〕 組織運営の部

2023-2024 年度 代議員の選出

2022 年 10 月、2023-2024 年度代議員選挙が公示され 336 名の定数に対して 350 名より立候補があった。代議員選出規程に基づき代議員候補者推薦委員会により 34 名の推薦代議員候補者を加えた 384 名の被選挙人を対象とした投票が実施される。当選した 336 名は、2023 年 3 月 18 日の第 15 回定時社員総会の終結後より任期 2 年に亘って就任する。

事業報告附属明細書

(2022年1月1日～2022年12月31日)

1. 役員 (2022年3月18日第14回定時社員総会終了後から就任)

会頭

山本 康次郎 群馬大学医学部附属病院

副会頭

石井 伊都子 千葉大学医学部附属病院

寺田 智祐 京都大学医学部附属病院

百瀬 泰行 国際医療福祉大学

理事

池田 龍二 宮崎大学医学部附属病院

石澤 啓介 徳島大学病院

伊藤 清美 武蔵野大学

齋藤 秀之 熊本大学病院

佐藤 淳子 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

佐野 俊治 MSD 株式会社

関根 祐子 千葉大学

田崎 嘉一 旭川医科大学病院

富岡 佳久 東北大学大学院薬学研究科

豊見 敦 南海老園豊見薬局

中村 敏明 大阪医科薬科大学

花輪 剛久 東京理科大学

濱浦 健司 シミックホールディングス株式会社

宮崎 長一郎 有限会社宮崎薬局

村木 優一 京都薬科大学

矢野 育子 神戸大学医学部附属病院

監事

奥田 真弘 大阪大学医学部附属病院

望月 眞弓 慶應義塾大学

安原 眞人 帝京大学

2. 事務局 (2022年12月31日現在)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目12-15 日本薬学会長井記念館7階

事務局長1名、職員4名、契約職員3名、その他派遣職員2名

以上、敬称略